

## 平成 29 年度女性の活躍推進委員会（第 1 回）議事概要

1 日時 平成 29 年 7 月 4 日（火） 14:30～16:10

2 場所 富山県民会館 8 階 バンケットホール

3 議事

- (1) 女性の活躍推進に係る国の動きについて
- (2) 女性の活躍推進に係る県の状況及び取組みについて
- (3) 女性の活躍推進に係る県内企業の取組みについて
- (4) 女性の活躍推進調査について
- (5) その他

4 主な意見

（A 委員）

小売業は、土日が一番大事というビジネスであるが、女性従業員が結婚、出産しながら働き続けるためには土日の休みが大切になってくることがあり、土日に働く人のための手当が充実してくると助かるなど思う。本県は、製造業中心で、土日休みが大半であり、土日働くのは特殊ということなのかもしれないが、土日働く人のためのインフラが充実すると女性も活躍しやすくなると思う。

（B 委員）

当会では、県出身の 20～30 代の U ターン促進のため、調査・提言事業を行っている。首都圏在住の女性向けのアンケート、本音の座談会を通じて、ふと U ターンを考えたことがある女性が比較的多いということがわかり、「ゆらぎ世代」と位置づけた。県の施策にも会員企業として積極的に協力しながら、自ら首都圏に出向き、とりわけ「ゆらぎ世代」の女性たちに企業の働き方の取組みや魅力などを積極的に伝える機会を設けたいと思っている。

（C 委員）

建設業は労働集約型の産業であるが、男性が集まらないから女性にお願いしようというは自然な流れである。女性活躍推進のポイントは 5 つあると思う。生理的な前提条件として、出産適齢期をどうとらえるか。高齢者を女性の活躍にどう活用していくか。3 世代同居の家族は子どもを産み、高齢者が孫の面倒を見るのが一般的である。また、労働生産性と労働法規の問題もクリアしなければならないと思う。ワークライフはライフの中にワークを位置付けるというのは、ワークライフシナジーだと思う。欧米とは違い、日本の風土は、働くことは善であり、生活の中に仕事があり、仕事と生活がシナジーしていく。中小企業は、大企業とは違い、窮余の策として女性の活用している。管理職登用の数値目標などルール化に縛られてしまうということも問題だと思う。

（D 委員）

中小企業は猫の手も借りたいという状態である。廃業していく人もかなりおり、廃業をいかに食い止めるかということと下請けでも技術力の高い企業に育てることが必要だと思い取組みを行っている。

#### (E委員)

中小企業は、女性の労働力を必要としており、女性が活躍している。「イクメン」という言葉は、男性が協力してやっているという意識があり、そういったことがなくっていく世の中になってほしいと話す女性がいた。男性がどんどん家事・育児に参画しイクメンが特殊な存在でなくなるようにしなければならない。

#### (F委員)

子育て世代の若手経営者の会員が多い。女性の活躍を推進するためには、男性の育児へのかかわりが重要である。男性の育休を促進するためには、生産性と両輪で考える必要がある。女性の活躍の場を広げるために、生産性が低下しては意味がないと思う。全体の環境づくりを進める必要がある。女性活躍推進法の一般事業主行動計画の策定について、努力義務のところを広げていく必要があると思う。認定マークを取得した際のメリットなども前面に打ち出していけないと努力義務が広がっていかないと思う。

#### (G委員)

医療福祉の分野は女性が多いと同時に人手の絶対数が不足している。課題としては、3K職場であるという誤解があり、正しいイメージを伝える必要がある。処遇改善も図られており、決して食べられない給与水準ではない。残業時間は1月あたり2.7時間でありほぼ残業はなく、有給休暇の取得率も高い。育児休業については、事業者側の回答だが、75%ぐらいは希望に沿った育休ができています。今後は、ICTを活用しさらに負担軽減を図っていくことが課題である。

#### (H委員)

女性が活躍するためには、労働時間の短縮や男性の育児参加が重要である。

プレミアムフライデーの取組みが民間の方では浸透していない。県が先頭にたって、管理職登用の取組みを進めているのは、大変心強い。

#### (I委員)

理系の現場で女性が少ないという点については、最近では、女性研究者に焦点をあてた取組みなども行われており、少しずつ変わっている。

キャリア教育の中で職場見学なども行っているが、今ほどあったような企業の取組みの話なども聞かせていただきたい。

ライフプラン教育も行っているが、女性が働きやすい職場は、男性が働きやすい職場であると生徒にも伝えており、そういった視点を養っていかなければならないと思う。

#### (J委員)

晩婚化の時代で、子育てが終わっても介護、あるいはダブルケアの問題があり、女性の非正規が多いというのもそういった問題が一因とも考えられ、企業側の取組みが重要だと思う。